

お世話になりました。

本年度をもちまして、転校する児童及び転勤する職員をお知らせします。願わくば、お世話になったお礼を対面でお伝えしたいところですが、そうした機会を設けることができませんので、紙面にて感謝の意を伝えさせていただきます。

【転校する児童】



5年 さん



3年 さん



5年 さん



1年 さん

懐の深い椎葉にはぐくまれながら、日々成長していく二人でした。ソフトボールで、夢中になることや仲間との絆も学ぶことができました。

好奇心・チャレンジ精神の旺盛な二人は、お父さんと一緒に神楽も舞いました。今年は、家族四人が学校でも家庭でも一緒になるという貴重な一年になりました。

今は個人情報には
りますので、取扱には
十分に留意ください。

つながり続けたい場所・人

56年生きてきました、大学進学や転勤の伴う仕事のおかげで、いろいろな土地に住ませてもらうことができました。離れる際の寂しさはつきものですが、行く先々で温かく迎えていただいたり、新たな親交が生まれたりすることは、本当に有り難いことであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

「親友とは、会えなかった日が何年経っていようが、再会の日には昨日ぶりかのように無邪気に楽しめる仲の人のことを言う。」

コロナが随分収まってきました。先日、昔大変お世話になった方からお誘いを受け、再会を果たすことができました。昔とちっとも変わらず、空白の年月の存在なんて無かったのではないかと思われました。

「離れていても思い続ける場所、それが『ふるさと』だ。」と私は思っています。

「虫のいい話でどうが、できればへき地校で勤務したいです。」人事のことによく出しますのは御法度、なぜならそれは、子どもを選ぶことにつながるから…と若いころからずっと思いましたが、校長転出が決まったヒアリングの際に、思い切って言ってみました。数ヶ月後、「椎葉小学校」と聞いた時は、(うそでしょ、何かのご褒美?)と耳を疑ってしまいました。椎葉に住み、椎葉で務めさせていただくのも今年で通算5年になりました。息子が椎葉で生まれたことに続いて、私の人生における大きな勲章になりました。

24年前、椎葉を離れる際も、家族と(できれば、もう1年お世話になりたいね。でも、後がつかえていると言うし…、やっぱり虫がいいから…。)と話をしていました。私や家族にとって、椎葉はずっと心のふるさとであり、つながり続けたい場所です。そして、お世話になった方々とは、一生お付き合いをさせていただきたいと望んでいます。

何がしたかったかが大事

慕っている先輩に異動の報告をした際、「校長として何ができたか、自信がありません。異動先で何を生かしていくべきなのか、今、熟考中です。複雑な心境です。」と思いを打ち明けました。すると、先輩から、「何ができたかではなくて、何がしたかったかじゃない。」とほつりと返事をいただきました。

職員に「～べき、～ねばならないの“かくあるべし思考”はやめましょう。自分のしたいことを追究していきましょう。」と偉そうに話していたのに、何ができたのかなどと拘子定規なことを考えていた自分が恥ずかしくなりました。

私は子どもが大好きです。そんな子どもを大切にしている保護者や地域の方も大好きです。だから、私は「子どもやその子につながる全ての人が幸せになってほしい」と心から願っていました。また、二度目の椎葉勤務を叶えてもらったのだから「恩返しになることがしたい」と思っていました。では、具体的に自分は何がしたかったのか。

申し訳ありませんが、達成感はありません。(過去の自分の人生でも)しかし、やりたいことに対して日々全力で突っ走ったという充実感はとても大きく、満足しています。全て、職員や保護者・地域の皆様のおかげです。この経験を土台とし、次のステージに挑んでいきます。本当に有り難うございました。

【転勤する職員】



先生



先生

元気・やる気の大切さを子ども達に身をもって教えてくれました。へき地校勤務を心から楽しみ、全力で使命を全うしました。



先生



教頭

先生は椎葉小、椎葉村のことをたくさんレクチャーしてくださり、学校経営を助けてくださいました。教頭先生は、へき地校勤務という貴重なキャリア、癒やしの期間が加わり、今後の学校経営に生かす学びを得ることができました。



校長